

# 数学情報科

1年	数学Ⅰ(特進)
1年	数学Ⅰ(進学)
1年	数学A(特進)
1年	数学A(進学)
2年	数学Ⅱ(特進理系)
2年	数学Ⅱ(特進文系)
2年	数学Ⅱ(進学理系)
2年	数学Ⅱ(進学文系)
2年	数学B(特進)
2年	数学B(進学)
3年	数学Ⅲ(特進理系)
3年	数学Ⅲ(進学理系)
3年	数学C(特進理系)
3年	数学C(進学理系)
3年	数学演習
3年	数学探究

## 2026年度 シラバス

対象	教科	科目名	単位	担当者
1年生 特進コースI&Sクラス	数学	数学 I	必修 3単位	山口 雄大
教科書	東京書籍「改訂版 数学 I Advanced」		副教材等	東京書籍「改訂版PRIME 数学 I +A」
授業のねらい	大学入学共通テストや難関大学の入試で通用する学力を身につける。			
学習上の留意点	予習をして授業に臨み、復習を必ず行うこと。			
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。			
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。			
学習計画	考査	単元	学習目標	
1 学 期	中間	1章 数と式 1節 式の計算 2節 実数 3節 1次不等式	中学校の内容を拡張し、複雑な式を計算することができる。 中学校の内容の復習も行う。 実数を理解し、根号を含む式の計算ができる。中学校の内容の復習も行う。 不等式の性質を理解し、不等式が解けるようになる。	
	期末	3章 2次関数 1節 関数とグラフ	2次関数の形を理解し、グラフがかけられるようになる。 関数を理解し、複雑な関数も平方完成ができるようになる。	
2 学 期	中間	2節 2次関数の値の変化 3節 2次方程式と2次不等式	平行移動、対称移動を理解し、最大値、最小値を求められる。様々な角度から、2次関数を決定できる。 2次方程式の解法を理解し、グラフを絡めて理解できる。 グラフを用いて、2次不等式を解くことができる。	
	期末	4章 図形と計量 1節 三角比	直角三角形と三角比を理解する。 サイン、コサイン、タンジェントの意味を理解し、直角三角形の辺の長さからその値を求めることができる。 三角比を拡張し、相互関係、方程式、不等式が解ける。	
3 学 期	学年末	4章 図形と計量 2節 三角形への応用	正弦定理、余弦定理、面積の公式を用いることができる。 座標を用いて定めることで $0^\circ$ から $180^\circ$ までの角に対するものに拡張された三角比を理解し、その値を求めることができる。	

## 2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 進学コースAクラス		数学	数学 I	必修	3単位	桑原 寛昭 大村 清 久保 未悠 岩村 まどか
教科書	数研出版「改訂版 最新 数学 I」		副教材等	数研出版「3TRIAL 数学 I +A」		
授業のねらい	それぞれの章の内容に対する新たな方法や考え方を学び、数学の学習をすすめる上での基礎となる役割を担っている。					
学習上の留意点	新しく習った事項は、時間をあけずに問題練習を行い、公式等を活用できるようにする。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	1章 数と式 1節 式の計算 2節 実数 3節 1次不等式		中学校の内容を拡張し、複雑な式を計算することができる。 中学校の内容の復習も行う。 実数を理解し、根号を含む式の計算ができる。中学校の内容の復習も行う。 不等式の性質を理解し、不等式が解けるようになる。		
	期末	3章 2次関数 1節 関数とグラフ		2次関数の形を理解し、グラフがかけられるようになる。 関数を理解し、複雑な関数も平方完成ができるようになる。		
2 学 期	中間	2節 2次関数の値の変化 3節 2次方程式と2次不等式		平行移動、対称移動を理解し、最大値、最小値を求められる。様々な角度から、2次関数を決定できる。 2次方程式の解法を理解し、グラフを絡めて理解できる。 グラフを用いて、2次不等式を解くことができる。		
	期末	4章 図形と計量 1節 三角比		直角三角形と三角比を理解する。 サイン、コサイン、タンジェントの意味を理解し、直角三角形の辺の長さからその値を求めることができる。 三角比を拡張し、相互関係、方程式、不等式が解ける。		
3 学 期	学年末	4章 図形と計量 2節 三角形への応用		正弦定理、余弦定理、面積の公式を用いることができる。 座標を用いて定めることで $0^\circ$ から $180^\circ$ までの角に対するものに拡張された三角比を理解し、その値を求めることができる。		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 特進コースI&Sクラス		数学	数学A	必修	2単位	岩村 まどか
教科書	東京書籍「改訂版 数学A Advanced」		副教材等	東京書籍「PRIME 数学I+A」		
授業のねらい	場合の数、順列、組み合わせの求め方を理解し、確率を求められる。図形の性質を理解し、さまざまな問題に適用できる。数列を理解し、一般項や和を求められる。					
学習上の留意点	予習をして授業に臨み、復習を必ず行うこと。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	準備 集合と命題  (数学Iの「集合」も扱う) 1節 場合の数		集合、命題、論証を理解し、論理的に物事を考えることができる。 いろいろな集合について理解する。 数え上げ、順列、組合せを区別して求められる。 中学校の内容の復習も行う。		
	期末	2節 確率とその基本性質 3節 いろいろな確率 1 独立な試行の確率 2 反復試行の確率		様々なパターンの確率を求められる。中学校の内容の復習も行う。 複雑な事象の確率が求められる。 独立な試行の意味を理解し、その確率を求めることができる。 複雑な事象の確率が求められる。		
2 学 期	中間	3 条件付き確率 4 期待値 2章 図形の性質 1節 三角形の性質		条件付き確率の意味を理解し、条件付き確率を求めることができる。 期待値の意味を理解し、期待値を求めることができる。 図中の線分の長さや比を求められる。中学校の内容の復習も行う。		
	期末	2節 円の性質 3節 空間図形		円の性質を利用して、角の大きさや線分の長さが求められる。中学校の内容の復習も行う。 直線と平面の位置関係や多面体の性質を理解できる。		
3 学 期	学年末	5章 データの分析		データを整理し、代表値を求めることができる。中学校の内容の復習も行う。データと図を利用し、分散、標準偏差、相関を求められる。仮説検定の考え方を理解し、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、判断し、批判的に考察することができる。		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 進学コースAクラス		数学	数学A	必修	2単位	大村 清 山口 雄大 森 俊朗
教科書	数研出版「改訂版 最新 数学A」		副教材等	数研出版「3TRIAL 数学I+A」		
授業のねらい	それぞれの章の内容に対する新たな方法や考え方を学び、数学の学習をすすめる上での基礎となる役割を担っている。					
学習上の留意点	新しく習った事項は、時間をあけずに問題練習を行い、公式等を活用できるようにする。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	準備 集合と命題  (数学Iの「集合」も扱う)  1節 場合の数		集合、命題、論証を理解し、論理的に物事を考えることができる。  いろいろな集合について理解する。  数え上げ、順列、組合せを区別して求められる。  中学校の内容の復習も行う。		
	期末	2節 確率		様々なパターンでの確率を求められる。中学校の内容の復習も行う。		
2 学 期	中間	2節 確率(1学期の続き)  2章 図形の性質  1節 平面図形		複雑な事象の確率が求められる。    三角形の内外角の2等分線、三心の性質を利用できる。  中学校の内容の復習も行う。		
	期末	1節 平面図形(中間の続き)		チェバ、メネラウスの定理、内に関わる性質を活用できる。  中学校の内容の復習も行う。		
3 学 期	学年末	5章 データの分析		データを整理し、代表値を求めることができる。中学校の内容の復習も行う。データと図を利用し、分散、標準偏差、相関を求められる。仮説検定の考え方を理解し、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、判断し、批判的に考察することができる。		

## 2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースI&Sクラス(理系)		数学	数学Ⅱ	必修	4単位	遠藤 環
教科書	東京書籍「数学Ⅱ Advanced」		副教材等	東京書籍「PRIME 数学Ⅱ+B」		
授業のねらい	大学入学共通テストや難関大学の入試で通用する学力を身につける。					
学習上の留意点	必ず予習をして授業に臨み、その日のうちに復習する。また、問題演習として副教材を利用し、理解度を深める。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	2章 図形と方程式 1節 点と直線 2節 円 3節 軌跡と領域		点と直線において様々な条件での位置関係をつかむ。 高校1年生の内容の復習も行う。 座標平面上の直線や円を式で表し、活用できる。 軌跡と不等式の領域について理解する。		
	期末	4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 2節 対数関数		指数関数と対数関数の特徴を理解する。 指数法則を用いた計算や対数の計算ができる。		
2 学 期	中間	3章 三角関数 1節 三角関数 2節 加法定理		一般角を導入して三角関数を定義する。 加法定理から2倍角・半角等の公式を導き活用する。		
	期末	5章 微分と積分 1節 微分係数と導関数 2節 導関数の応用 3節 積分法		微分係数の意味と導関数の定義を理解する。 3次関数のグラフがかけられるようにする。 面積を定積分で求められる。		
3 学 期	学年末	[数学Ⅲ]1章 関数と極限 1節 関数 2節 数列の極限		分数関数や無理関数のグラフやその範囲について学ぶ。 数列の極限の概念を理解する。		

## 2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースI&Sクラス(文系)		数学	数学Ⅱ	必修	4単位	柴崎 もも
教科書	東京書籍「数学Ⅱ Standard」		副教材等	東京書籍「WIDE 数学Ⅱ +B」		
授業のねらい	式と証明・高次方程式・図形と方程式・いろいろな関数及び微分・積分の考え方について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。					
学習上の留意点	基本的には教科書を軸に進め、問題演習の時間もとる。副教材を適宜用意して理解の助けや演習問題の不足を補う。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	2節 2次方程式 3節 高次方程式	複素数の概念を学び、因数分解などの理解を深める。 高校1年生の内容の復習も行う。 3次以上の方程式も解けるようにする。 恒等式や証明について理解を深める。			
	期末	2章 図形と方程式 1節 点と直線 2節 円 3節 軌跡と領域	点と直線において様々な条件での位置関係をつかむ。 高校1年生の内容の復習も行う。 座標平面上の直線や円を式で表し、活用できる。 軌跡と不等式の領域について理解する。			
2 学 期	中間	3章 三角関数 1節 三角関数 2節 加法定理	一般角の導入や弧度法の有用性と三角関数を理解する。 加法定理から2倍角・半角等の公式を導き活用する。			
	期末	4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 2節 対数関数	指数関数と対数関数の特徴を理解する。 指数法則を用いた計算や対数の計算ができる。			
3 学 期	学年末	5章 微分と積分 1節 微分係数と導関数 2節 導関数の応用 3節 積分	微分係数の意味と導関数の定義を理解する。 3次関数のグラフがかけられるようにする。 面積を定積分で求められる。			

## 2026年度 シラバス

対象	教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コースAクラス(理系)	数学	数学Ⅱ	必修	4単位	遠藤 環 岩村 まどか
教科書	東京書籍「数学Ⅱ Standard」		副教材等	東京書籍「WIDE 数学Ⅱ+B」	
授業のねらい	式と証明・高次方程式・図形と方程式・いろいろな関数及び微分・積分の考え方について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。中堅大学受験で通用する学力を身につける。				
学習上の留意点	予習と復習を忘れずに行うこと。				
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。				
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元	学習目標		
1 学 期	中間	1章 方程式・式と証明	高校1年生の内容の復習も行う。		
		1節 多項式の乗法・除法と分数式	二項定理について理解し、応用することができる。		
		2節 2次方程式	複素数の概念を学び、因数分解などの理解を深める。		
	期末	3節 高次方程式	剰余の定理から因数定理へと理解を深めさせる。		
		2章 図形と方程式	点と直線において様々な条件での位置関係をつかむ。		
		1節 点と直線	高校1年生の内容の復習も行う。		
2 学 期	中間	2節 円	座標平面上の直線や円を式で表し、活用できる。		
		3節 軌跡と領域	軌跡と不等式の領域について理解する。		
		3章 三角関数	一般角を導入して三角関数を定義する。		
	期末	1節 三角関数	加法定理から2倍角・半角等の公式を導き活用する。		
		2節 加法定理			
		4章 指数関数・対数関数	指数関数と対数関数の特徴を理解する。		
3 学 期	期末	1節 指数関数	指数法則を用いた計算や対数の計算ができる。		
		2節 対数関数			
		5章 微分と積分	微分係数の意味と導関数の定義を理解する。		
	学年末	1節 微分係数と導関数	3次関数のグラフがかけられるようにする。		
		2節 導関数の応用	面積を定積分で求められる。		
		3節 積分			

## 2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コースAクラス(文系)		数学	数学Ⅱ	必修	3単位	遠藤 環 柴崎 もも 五十嵐 文彦 春木 美典 岩村 まどか
教科書	数研出版「最新 数学Ⅱ」		副教材等	数研出版「パラレルノート 数学Ⅱ」		
授業のねらい	式と証明・高次方程式・図形と方程式・いろいろな関数及び微分・積分の考え方について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。特に、1、2、3、5、6章についてはより深く学習することとする。					
学習上の留意点	基本的には教科書を軸に進め、問題演習の時間もとる。副教材を適宜用意して理解の助けや演習問題の不足を補う。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	1章 方程式・式と証明 1節 多項式の乗法・除法と分数式 2節 2次方程式 3節 高次方程式		高校1年生の内容の復習も行う。 分数式の四則演算の方法を理解し、計算ができる。 複素数の概念を学び、因数分解などの理解を深める。 剰余の定理から因数定理へと理解を深めさせる。		
	期末	3章 図形と方程式 1節 点と直線 2節 円		点と直線において様々な条件での位置関係をつかむ。 高校1年生の内容の復習も行う。 座標平面上の直線や円を式で表し、活用できる。		
2 学 期	中間	6章 微分と積分 1節 微分法		微分係数の意味と導関数の定義を理解する。 3次関数のグラフがかけられるようにする。		
	期末	2節 積分法		面積を定積分で求められる。		
3 学 期	学年末	5章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 2節 対数関数		指数関数と対数関数の特徴を理解する。 指数法則を用いた計算や対数の計算ができる。		

## 2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースI&Sクラス(理系)		数学	数学B	必修	2単位	柴崎 もも
教科書	東京書籍「数学B Advanced」		副教材等	東京書籍「PRIME 数学Ⅱ+B」		
授業のねらい	大学入学共通テストや難関大学の入試で通用する学力を身につける。					
学習上の留意点	必ず予習をして授業に臨み、その日のうちに復習する。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	1章 数列 1節 数列		数列の一般項や和などの基本事項を学ぶ。 高校1年生で数列の内容を先取りしていたので、そのときに学習した内容の復習も行う。		
	期末	2節 漸化式と数学的帰納法		漸化式で表された数列の一般項を求められる。 数学的帰納法を用いて証明ができる。		
2 学 期	中間	[数学C]1章 ベクトル 1節 平面上のベクトル 2節 ベクトルの応用		ベクトルの概念を理解し、平面図形にベクトルを適用する。		
	期末	3節 空間におけるベクトル		空間図形にベクトルを適用する。		
3 学 期	学年末	2章 統計的な推測 1節 標本調査 2節 確率分布 3節 正規分布 4節 統計的な推測		確率変数を導入し、平均・分散・標準偏差の意味を学ぶ。 2つの確率変数の同時確率とその同時確率分布や独立な確率変数および確率変数の和や積の意味を理解する。 二項分布を導入し、その性質を理解する。 正規分布と標準正規分布の性質を理解する。 標本の大きさが大きいとき、標本平均の分布は正規分布で近似できることをグラフで視覚的に理解する。 信頼度95%の信頼区間という考え方を理解する。		

## 2026年度 シラバス

対象	教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コースAクラス(理系)	数学	数学B	必修	2単位	遠藤 環 柴崎 もも
教科書	東京書籍「数学B Standard」		副教材等	東京書籍「WIDE 数学Ⅱ+B」	
授業のねらい	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。				
学習上の留意点	基本的には教科書を軸に進め、問題演習の時間もとる。副教材を適宜用意して理解の助けや演習問題の不足を補う。				
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。				
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元	学習目標		
1 学 期	中間	1章 数列 1節 数列	数列の一般項や和などの基本事項を学ぶ。 高校1年生で数列の内容を先取りしていたので、そのときに学習した内容の復習も行う。		
	期末	2節 漸化式と数学的帰納法	漸化式で表された数列の一般項を求められる。 数学的帰納法を用いて証明ができる。		
2 学 期	中間	2章 統計的な推測 1節 標本調査 2節 確率分布	確率変数を導入し、平均・分散・標準偏差の意味を学ぶ。 2つの確率変数の同時確率とその同時確率分布や独立な確率変数および確率変数の和や積の意味を理解する。 二項分布を導入し、その性質を理解する。		
	期末	3節 正規分布 4節 統計的な推測	正規分布と標準正規分布の性質を理解する。 標本の大きさが大きいとき、標本平均の分布は正規分布で近似できることをグラフで視覚的に理解する。 信頼度95%の信頼区間という考え方を理解する。		
3 学 期	学年末	[数学C]1章 ベクトル 1節 平面上のベクトル 2節 ベクトルの応用	ベクトルの概念を理解し、平面図形にベクトルを適用する。		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースI&Sクラス(理系)		数学	数学Ⅲ	必修	4単位	桑原 寛昭 久保 未悠
教科書	東京書籍「数学Ⅲ Advanced」		副教材等	河合出版「数学Ⅲ(極限,級数,微分,積分)試験に出る計算演習 改訂版		
授業のねらい	一般選抜の問題に対応できる力を身に付ける。					
学習上の留意点	予習をして授業に臨む。また復習を毎日必ず行う。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	2章 微分 1節 微分法 2節 いろいろな関数の導関数 3章 微分の応用 1節 接線、関数の増減 2節 微分のいろいろな応用		様々な関数を理解し、その関数に応じ微分できるようになる。 様々な関数のグラフが描けるようになる。		
	期末	4章 積分とその応用 1節 不定積分 2節 定積分 3節 面積・体積・長さ		様々な関数の積分ができるようになる。 面積や体積を求められるようになる。		
2 学 期	中間	入試対策 ↓		大学入学共通テストを始めとする入試問題を解けるようになる。		
	期末					
3 学 期	学年末					

## 2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(理系)		数学	数学Ⅲ	必修	3単位	久保 未悠 春木 美典
教科書	東京書籍「数学Ⅲ Standard」		副教材等	数研出版「改訂版 リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B 受験編 approach + basic」		
授業のねらい	一般選抜の問題に対応できる力を身に付ける。					
学習上の留意点	予習をして授業に臨む。また復習を毎日必ず行う。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	3章 関数と極限 1節 関数 2節 数列の極限 3節 関数の極限		分数関数や無理関数のグラフやその範囲について学ぶ。 数列の極限の概念を理解する。 基本的な極限の考え方について理解する。		
	期末	4章 微分 1節 微分法 2節 いろいろな関数の導関数		様々な関数を理解し、その関数に応じ微分できるようになる。		
2 学 期	中間	5章 微分法の応用 1節 接線 2節 微分のいろいろな応用		様々な関数のグラフが描けるようになる。		
	期末	6章 積分とその応用 1節 不定積分 2節 定積分 3節 面積・体積・長さ		様々な関数の積分ができるようになる。 面積や体積を求められるようになる。		
3 学 期	学年末					

## 2026年度 シラバス

対象	教科	科目名	単位	担当者
3年生 特進コースI&Sクラス(理系)	数学	数学C	必修 2単位	桑原 寛昭 久保 未悠
教科書	東京書籍「数学C Advanced」		副教材等	数研出版「チャート式シリーズ 入試必携168 理系対策 数学 I A II BC 見て解いて確かめる応用自在の定石手帳」
授業のねらい	一般選抜の問題に対応できる力を身に付ける。			
学習上の留意点	予習をして授業に臨む。また復習を毎日必ず行う。			
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。			
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。			
学習計画	考査	単元	学習目標	
1 学 期	中間	2章 平面上の曲線 1節 2次曲線 2節 媒介変数表示と極座標	放物線、楕円、双曲線の性質を理解し、応用することができる。 媒介変数表示、極座標、極方程式を理解し、図示することができる。	
	期末	入試対策		
2 学 期	中間			
	期末			
3 学 期	学年末	↓		

## 2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(理系)		数学	数学C	必修	2単位	大村 清 山口 雄大
教科書	東京書籍「数学C Standard」		副教材等	東京書籍「WIDE 数学C」 数研出版「改訂版 リンク数学演習 I・A+II・B 受験編 approach + basic」		
授業のねらい	一般選抜の問題に対応できる力を身に付ける。					
学習上の留意点	予習をして授業に臨む。また復習を毎日必ず行う。					
評価方法	各学期の10段階評価は、定期テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	[数学C]1章 ベクトル 1節 平面上のベクトル 2節 ベクトルの応用		ベクトルの概念を理解し、平面図形にベクトルを適用する。		
	期末	3節 空間におけるベクトル		空間図形にベクトルを適用する。		
2 学 期	中間	2章 平面上の曲線 1節 2次曲線 2節 媒介変数表示と極座標		放物線、楕円、双曲線の性質を理解し、応用することができる。 媒介変数表示、極座標、極方程式を理解し、図示することができる。		
	期末	入試対策		大学入学共通テストを始めとする入試問題を解けるようになる。		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースI&Sクラス(文系)		数学	数学演習	必修選択	3単位	春木 美典
教科書	なし		副教材等	なし		
授業のねらい	1年生で学習した数学 I Aの基礎・基本の復習・演習を主に行い、より理解を深め、1年生で学習したときには気付かなかったことを発見させることで、数学に対する興味・関心を引き出す。					
学習上の留意点	基本的な内容から受験レベルまでを習得させる。					
評価方法	各学期の10段階評価は、授業内テストの素点に平常点10点を加えたものを絶対評価でつける。学年の評定は、各学期の10段階評価を加えたものを相対評価でつける。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	数学 I A I I B Cの基本・標準の内容		数学 I A I I B Cの内容を理解する		
	期末					
2 学 期	中間	↓		↓		
	期末					
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス		数学	数学探究	選択	2単位	五十嵐 文彦
教科書	なし		副教材等	なし		
授業のねらい	数学と日常を絡めた問題を解いて、グループに分かれてプレゼンテーションを行うことで、授業で得た知識をより深く理解できるようになることを目的とする。					
学習上の留意点	グループワークやプレゼンテーションを主にし、生徒に自発的に学習させる。					
評価方法	レポート、プレゼンテーション資料および発表、平常点で評価する。□					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	数学と日常を絡めた内容		授業で得た知識をより深く理解できるようになる。		
	期末					
2 学 期	中間					
	期末					
3 学 期	学年末					